

●受難節第一主日

泉のほとり

今月の詩編「第二十四編」

栄光に輝く王とは誰か。

万軍の主、

主こそ栄光に輝く王。



わたしを憎む者には

「あなたは『自分のために』いかなる像も造ってはならない。上は天にあり、下は地にあり、また地の下の水の中にある、いかなるものの形も造ってはならない。」

十戒は、創世記1章、2章の天地創造された神さまによって語られたことばです。神は天地を創造され、最後に人を「自身」にかたどり、造られた天地に、すべての「よい」を人のために満たしてくださいました。上は天、下は地、水の中にあるいかなるものも、もともと「人のために」造られたのです。であるのに、「自分のために、いかなる像を造る。それにひれ伏し、仕える」とは、神の創造の御業と秩序を根底から否定することにほかなりません。人は神の栄光に輝く、神のお姿をもって造られたのです。その「人」があらゆる生き物の像を作り、ひれ伏すことは、人の尊厳への冒瀆、それだけでは済まない話です。神への冒瀆、神の尊厳を踏み躪る暴力です。

「わたしは熱情の神である」とあります。正確には「ねたみの神」です。御子を与えられるまで、人へ注がれた神の聖なる御心が創造の御業に、人を産んでくださった御業に表されているのです。その御心を知れば知るほど、知れば知るほど、人がいかなる像を作り、それに仕えることに對する神の激しいねたみに、信仰者自身も捕えられるはずです。預言者たちは、この神のねたみが彼ら自身の心を食い尽くし、彼らの心になつていたのでした。

主なる神は、「わたしを憎む者には、父祖の罪を子孫に三代、四代までも問うが、わたしを愛し、わたしの戒めを守る者には、幾千代にも及ぶ慈しみを与える」と言われました。これは、父の罪の報いの子が受けるという意味ではありません。人はそれぞれ自分自身の罪によって滅びるのであって、先祖の罪ではありません。他方、戒めを守る者には「千代」に及ぶ慈しみが告げられました。今の私が神の戒めを愛し、生きるということが、私の子、子孫への愛の業にもつながるのです。

「わたしを憎む者」に対し、「わたしの戒めを守る者」が言われています。つまり、「わたしを憎む者」とは「わたしの戒めを守らない者」とも表されます。主イエスはヨハネの福音書で「わたしを憎む者は、わたしの父をも憎んでいる」と言われました。これを聞いたユダヤ人たちは、自分たちが「神を憎む」とは誰も思っておらず、むしろ「神を愛し、神第一」という信仰に生きていたとの自覚でした。しかし、彼らは主イエスを十字架につけました。彼らの言葉や自覚とは違い、それほどに神を憎み、拒んだということです。彼らは、神の戒めを守らないどころか、聖書が証する神ではない、自ら別の像の神を表し、生き、その神に仕えていたのです。

十戒はその彼らのために与えられました。神を憎んでいる自覚がないにしても、十戒のすべてを捨てたそのあり方に気づかなければなりません。主イエスは気づかせてくださったのです。たとえば、「殺してはならない」と言われ、隣人を憎む、妬む、見下す心、それも人殺しである。火の地獄だと。しかし、民はそのような自分たちであっても「よし」としてくれる「神であつて欲しい」ところまでした。その心に、キリストが十戒を通して教えられる神は、自分たちが願う神ではない。キリストを憎み、殺したのです。それは、神を拒み、憎むということなのでした。

十字架は2000年前のユダヤ人たちが起こした出来事と思つてはなりません。今、この時代の教会に主イエスが表れたなら、人は憎まないだろうか。私たちは別の形、像の神を作つてはいないだろうか。十戒は、神の「民」とされた教会にも語られていることを忘れないでいきましょう。

神の創造の御業、その秩序を否定し、神を憎んで生きてきた、かつての生き方を捨て、私を造られた神の戒めを愛し、生きていきたい。それで、輝く神の栄光を映し、神の尊厳を表す者として生きていきたい。人を造られた父の御業、その尊厳を犯すことに対しては、神のねたみを知る神のものとなる。そう願つていきたいと思つています。

《四国便り》

(先週の続き)

その頃主治医より「田端さんは流動食を食べてくれません。このままでは命にかかわりますので鼻からチューブを入れて栄養を入れなければ」との事でしたが祈ると現実を通して主なる神様がはつきりとストップサインを下さいました。もちろん私はお断りました。その後少しして主治医に呼ばれました。

「田端さんの衰弱はひどく余命は最短で後四日です。長くても十日です。」と。この日は昨年十一月二十日でした。その主治医の話を聞いていた私の霊の内に大きく響き渡る主の御声は御言葉でした。「世に勝つ者は誰かイエスを神の子と信じる者ではないのか。」私の霊は驚きと喜びに溢れました。耳に聞えている言葉は絶望ですが霊の内に響いているのは絶対勝利の宣言でした。私は心の中で「主よ命の日数を決めるのは人ではありません。主なる神様に有ると信じまた御言葉の真実を信じます」と答えておりました。主人は何故食事をそんなに拒否するのか。原因となるものを徹底的に調べようと思ひ「明日の主人の食時に立ち会わせていただけませんか」とお願いしました。すると「どうぞ、そうして下さい。ご本人の好物をなんでも食べさせてあげてください。」と。この瞬間に、主なる神様の幸運のテーブルが私の前で止まりました。主治医公認で食事を日曜日を除く毎日毎日届けて、食時を共にし、心の栄養の為にも家族の思ひ出話をする日もあり、ある時にはイエス様が話された有名なたとえ話をします。

看護婦長さんや看護婦さん達がまるで古く親しい友人の様に接して下さる事を感謝しております。そして主治医が主人の所に食事を運び幸いな時間を過

ごす事を許可して下さった事にも深い感謝を致しております。許可をいただいで初めて改めた気持ちで病室にはいりまず主人の額に手を置いて感謝のお祈りをしようとした時、驚くべき奇跡を賜りました。私の祈りのはじめの言葉はいつも「愛する天の父なる神様」なのです。しかしこの日、私の口から出た言葉は「田端剛爾よ。命の回復を受けよ！」でした、びつくりする私の耳に聞えたのは主人の力強い「アーメン！」でした。

一つのお約束の御言葉が心に響きました。『主もまた彼等と共に働き御言葉に伴うしるしをもつて、それを確かなものとされた。』もう一つ心の底に主なる神様が植え付けて下さった御言葉があります。それはイザヤ書の御言葉です。『そのようにわたしの口から出るわたしの言葉もむなしくはわたしのもとに戻らない。それは私の望むことを成し遂げわたしの与えた使命を必ず果たす』主人は余命あと四日と断定されたのは昨年十一月二〇日でした。今、主人の顔色は頬に紅色がでて顔は主の平安で包まれてします。あの日から新年になり二ヶ月以上を主に感謝しながら天から与えられた命を毎日喜び感謝して生きております。主なる神様の威光と尊厳と栄誉と光栄と力をもつて主人に『命の回復を受けよ』と宣言されたとおりを實現して下さいました。主を喜び賛えながら牧会に励んでまいります。

シオンフルゴスペル・チャーチ

田端良恵

《今日のお知らせ》

○礼拝後、交わりの会を地下ホールで行います。聖書、讚美歌をお持ちの上、ご参加ください。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会はお休みです。

《交読詩篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。
〔司・会〕の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇二十四篇】ダビデの詩。賛歌。

地とそこに満ちるもの

世界とそこに住むものは、主のもの。

主は、大海の上に地の基を置き

潮の流れの上に世界を築かれた。

どのような人が、主の山に上り

聖所に立つことができるのか。

それは、潔白な手と清い心をもつ人。

むなししいものに魂を奪われることなく

欺くものによって誓うことをしない人。

主はそのような人を祝福し

救いの神は恵みをお与えになる。

それは主を求め人

ヤコブの神よ、御顔を尋ね求める人。

城門よ、頭を上げよ

とこしえの門よ、身を起こせ。

栄光に輝く王が来られる。

栄光に輝く王とは誰か。

強く雄々しい主、雄々しく戦われる主。

城門よ、頭を上げよ

とこしえの門よ、身を起こせ。

栄光に輝く王が来られる。

〔司・会〕

栄光に輝く王とは誰か。

万軍の主、主こそ栄光に輝く王。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「祈りの家を守る」

聖書 マタイ21章12〜17節

説教者 吉村和雄名誉牧師

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「互いに足を洗い合う」

聖書 ヨハネ13章12〜15節

説教者 宮間彰広 兄

●主日礼拝(午前10時30分・礼拝堂)

讃美歌 140番 168番

説教 「今日、あなたの王が来られる」

聖書 ゼカリヤ9章9〜10節
マタイ21章1〜11節

説教者 吉村和雄名誉牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 143番 78番
説教 「御名を汚さない誠実さに」
聖書 出エジプト記20章7節(旧約 P.126)
司式 石川一兄
聖餐司式 黄允湜 牧師
説教者 黄允湜 牧師

前奏曲「バビロンの流れのほとりで」 J.S.バッハ

○讃美歌143番

1. 十字架をあおぎて めかずくときに
まさりてとうとき おりこそあらめ
2. ここよりしたたる めぐみの水は
枯れにしこの身の いのちなりけり
3. おもえばみくには ここにぞ成れる
のろいをさかえに 主はかえませり
4. せいなるかなしみ ころろにせまり
なみだとあふれて み足をひたす
5. のぞみはあらたに ここより湧きて
つみとがおそれは あとだにあらじ
6. あおぐもかしこき すくいのみみの
十字架のもとより いかでか離れん

アーメン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。

○讃美歌78番

1. いときよし あまつかみ
その御名に さかえあれ
そのみむね あめのごと
地のうえに なれよかし
2. いとくすし あまつかみ
世の民を かえりみて
日を照らし 雨ふらせ
みめぐみを くださったもう
3. おおいなり あまつかみ
ものみなを すべたもう
いとたかき おお御名を
かしこみて ほめまつらん

アーメン

聖餐曲「不思議な愛」 D.ワット

後奏曲「全能の神の恵みの大きさよ」 F.メンデルスゾーン